

肺癌患者における予後と倦怠感、 不眠、抑うつ、痛みとの関係

かわ さき ゆう じ¹⁾ こしょうぶ とも あき²⁾ わた なべ えつ こ¹⁾
河 崎 雄 司 小勝負 知 明 渡 部 悦 子
おか ざき りょう た¹⁾ とう げ ひろ かず¹⁾ とく やす ひろ かず¹⁾
岡 崎 亮 太 唐 下 泰 一 徳 安 宏 和
まえ た りょう いそ わ のり たか うえ だ やす ひと⁴⁾
前 田 亮 磯 和 理 貴 上 田 康 仁
なか たに しげる²⁾
中 谷 葆

キーワード：肺癌，倦怠感，予後

要 旨

化学療法を施行した IIIA 期以上の男性非小細胞肺癌患者で予後（生存期間）と化学療法前での全身倦怠感、不眠、抑うつ、痛みとの関係について検討した。倦怠感の強い患者では有意に生存期間（日）も短く、倦怠感は予後因子であった。倦怠感の不眠、抑うつ、痛みなど多くの因子が関連した複合的な病態であり、それらの因子への介入は、倦怠感の改善、さらには予後の改善につながる可能性がある。

目 的

倦怠感のがん患者の QOL の悪化をもたらすが、さらに予後（生存期間）も短縮させる¹⁾。この倦怠感には Performance Status (PS)、不眠、抑うつ、痛みなどの因子が関連している²⁾。倦怠感の強い患者ではこれらの因子の悪化も予想され、それらも予後に影響している可能性がある。ここでは、肺癌患者における倦怠感、不眠、抑うつ、

痛みと予後との関係を調べ、予後改善の視点から倦怠感を中心に考察する。

対 象 と 方 法

対象は2002年4月から2004年10月までに米子医療センター内科および松江赤十字病院呼吸器科に入院し、病名告知後に化学療法、一部は放射線療法も加えた IIIA 期以上の男性非小細胞肺癌患者のうち1年以上フォローを行い死亡した患者18名、生存中の患者2名であった（表1）。これらの対象患者の病名告知時に倦怠感、不眠、抑うつ、痛みの程度を質問票で調べた。倦怠感の質問票は Functional Assessment of Cancer Therapy Fatigue (FACT-F) subscale ([FACT-F

Yuji KAWASAKI et al.

- 1) 松江赤十字病院呼吸器科
 - 2) 独立行政法人国立病院機構米子医療センター内科
 - 3) 松江赤十字病院呼吸器外科
 - 4) 鳥取大学医学部分子制御内科(元松江赤十字病院呼吸器科)
- 連絡先：〒690-8506 島根県松江市母衣町200番地